



2017年度(平成30年3月期) 第1四半期 決算説明会

エーザイ株式会社
2017年8月2日

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

2017年度第1四半期 連結業績(IFRS)



2017年度見通しに対して、想定どおりの利益水準を達成

(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	1,369	100.0	1,419	100.0	104
売上原価	498	36.4	494	34.8	99
売上総利益	871	63.6	925	65.2	106
研究開発費	273	19.9	332	23.4	122
販売管理費	426	31.1	443	31.2	104
その他の損益	86	6.2	2	0.1	2
営業利益	258	18.9	151	10.7	59
四半期利益	209	15.3	106	7.5	51
四半期利益(親会社所有者帰属)	197	14.4	98	6.9	50

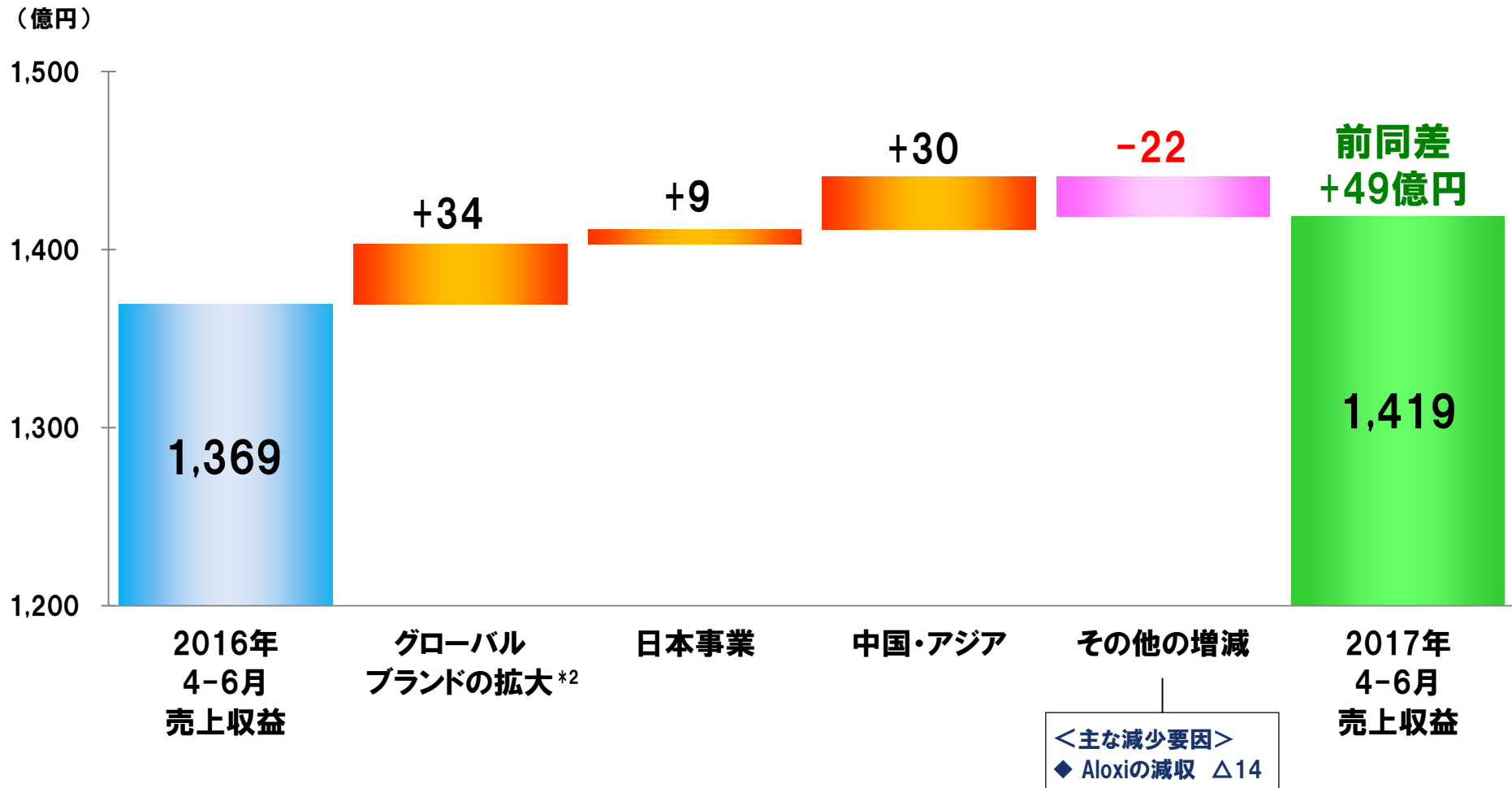
2017年度第1四半期期中平均レート

米ドル:111.09円(前期変動率+2.7%)、ユーロ:122.19円(同+0.1%)、英ポンド:142.00円(同△8.4%)、人民元:16.21円(同△1.9%)

* 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていた11億円を研究開発費に組み替えている。

売上収益の増減要因分析

グローバルブランド*1、中国・アジアが拡大

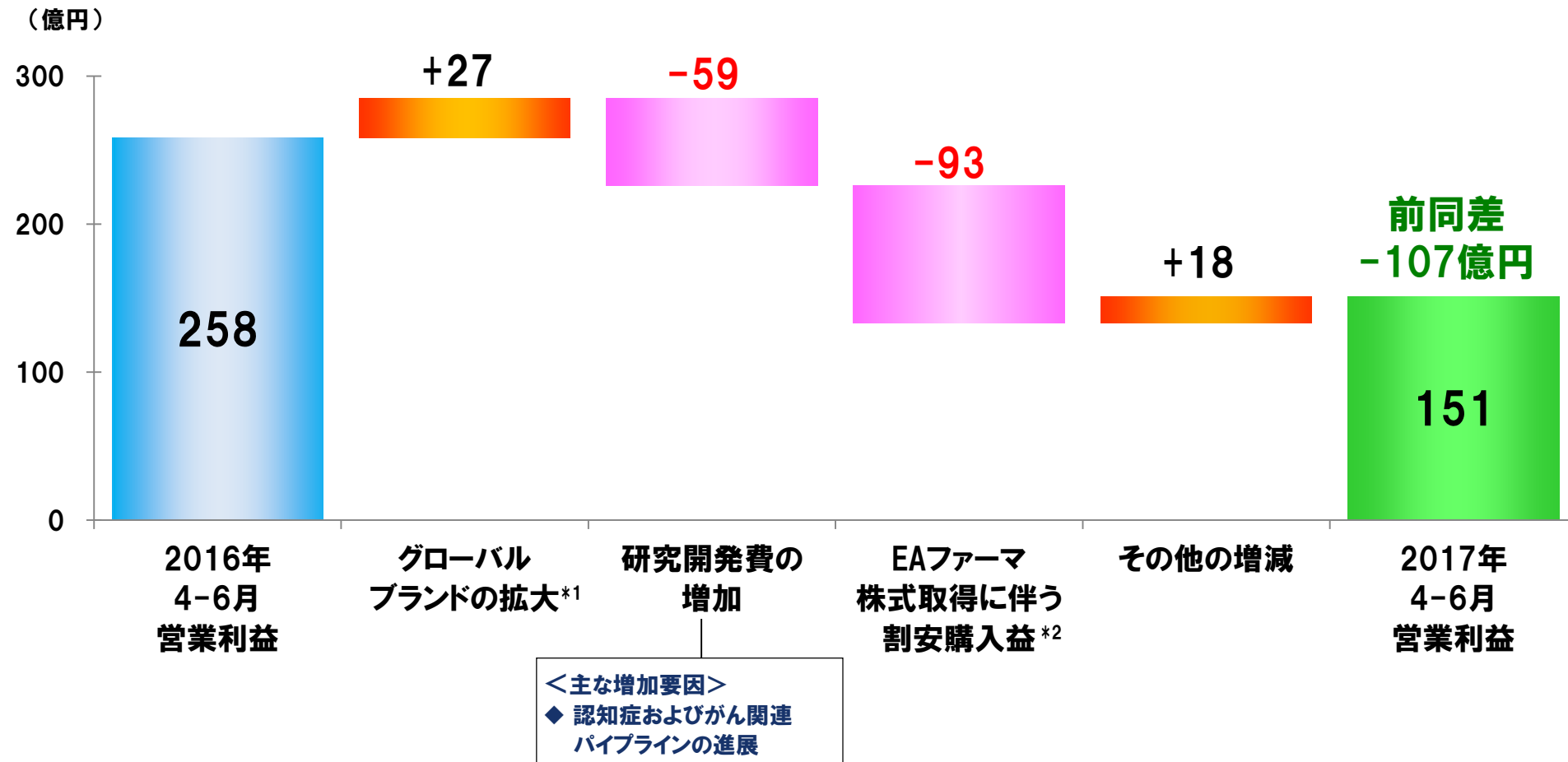


* 増減要因の数値は概数

*1 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQ *2 日本事業の実績は除く

営業利益の増減要因分析

2017年度見通しに対して想定どおりの進捗



* 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていた11億円を研究開発費に組み替えている。

** 増減要因の数値は概数

*1 LENVIMA、Halaven、Fycopma、BELVIQの営業利益を表示、日本事業の実績は除く *2 2016年度1Q計上

2017年度 連結業績見通し(IFRS)



(億円、%)

	2016年度		2017年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,391	100.0	5,755	100.0	107
売上原価	1,959	36.3	2,060	35.8	105
売上総利益	3,432	63.7	3,695	64.2	108
研究開発費	1,172	21.7	1,340	23.3	114
販売管理費	1,749	32.5	1,775	30.8	101
その他の損益	80	1.5	20	0.3	25
営業利益	591	11.0	600	10.4	102
当期利益	422	7.8	413	7.2	98
当期利益(親会社所有者帰属)	394	7.3	398	6.9	101
EPS(円)	137.6		139.2		101
ROE(%)	6.8		6.8		
DOE(%)	7.4		7.4		
配当金(円)	150		150		

2016年度期中平均レート 米ドル:108.38円、ユーロ:118.78円、英ポンド:141.59円、人民元:16.10円
 2017年度期中平均予想レート 米ドル:113円、ユーロ:120円、英ポンド:141円、人民元:16.3円

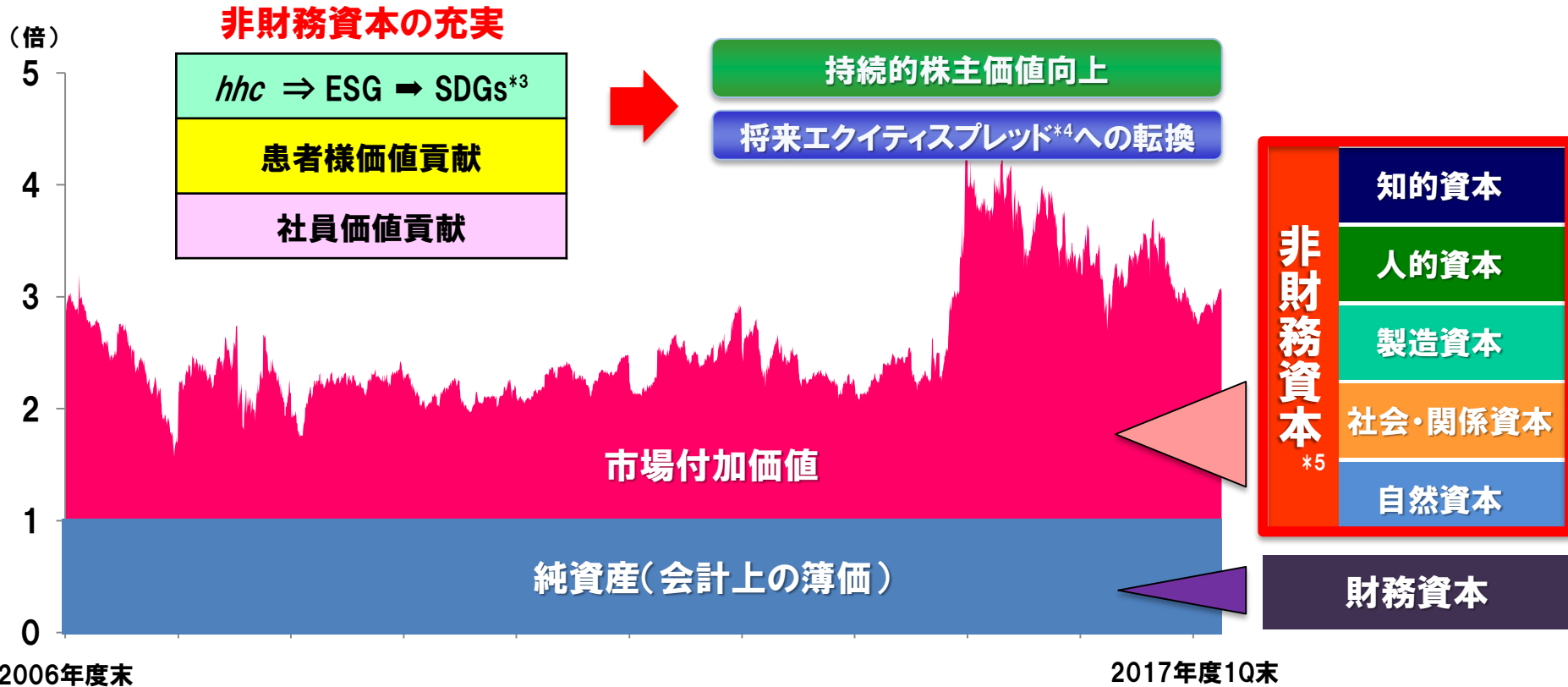
* 本連結業績見通しには、当社が2017年5月3日に発表した、米国における制吐剤「Aloxi」の特許侵害訴訟に関するリスクによる影響は含めていない。
 ** 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていた47億円を研究開発費に組み替えている。

ESG^{*1}を含む非財務資本が長期的な株主価値を向上



PBR^{*2}が示唆する非財務資本による付加価値創造

PBRの推移(2006年度末~2017年度1Q末)



ESGに関する主な外部評価

- ◆MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数に選定(2017年7月)、ESG格付でAAを獲得
- ◆FTSE 4 Good Index Seriesに選定(2017年6月)、FTSE Blossom Japan Indexに選定(2017年7月)
- ◆2016年度医薬品アクセス貢献度調査 世界ランキング11位、国内ランキング1位
- ◆Dow Jones Sustainability Asia Pacific Indexに選定(2016年9月)

*1 Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治) *2 Price Book-Value ratio(株価純資産倍率) *3 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)
 *4 ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率)-株主資本コスト(当社は8%と仮定) *5 IIRC(国際統合報告評議会)のマルチキャピタルモデル

認知症領域 攻撃因子の重積過程^{*1}をターゲットとする創薬 Elenbecestat^{*2,3} 開発の順調な進展



Elenbecestat
(BACE阻害剤)

フェーズIII試験 MISSION AD1、MISSION AD2^{*4}進行中



同一デザインの2本のフェーズIII試験を
同時に実施

- 2016年10月 米国で試験開始
- 2017年3月 日本で試験開始
- 2017年4月 中国でCTA^{*5}申請を提出
- 2017年6月 欧州で試験開始
- 2017年7月 AAIC2017^{*6}で最新データを発表

- 対象: 早期AD患者様
(MMSE: ≥ 24 、CDR: 0.5、
CDR memory box: ≥ 0.5 、アミロイド陽性)
- 目標症例数: 1330人
- 群設定: Elenbecestat 50mg vs プラセボ
- 主要評価項目: CDR-SB

発表 演題	新規の経口BACE阻害剤、Elenbecestatは臨床用量を大幅に超える用量である200mgまでQTc間隔に対し臨床的な作用を示さない
	Elenbecestatの薬物動態的に薬物相互作用を検討した結果、ほとんどの併用療法に関し投薬量調整が必要ないことが示唆
	新規BACE阻害剤Elenbecestatを用いた前臨床試験では、皮膚の色素脱失のエビデンスは見られない

➤ **2020年度 主要評価項目のトップライン結果取得予定**

*1 認知症にいたる過程として、A β の蓄積によってタウ病理が進展し、タウタンパク質の細胞内蓄積によって神経細胞死が引き起こされ、病態での反応性グリア細胞がシナプス障害やニューロンの細胞死を誘導するという、攻撃因子の重積過程が提唱されている。 *2 E2609の一般名。現時点で最終確定したものではない。

*3 Biogen社との共同開発 *4 E2609のフェーズIII試験の名称(AD1は301試験、AD2は302試験) *5 Clinical Trial Application

*6 AAIC: Alzheimer's Association International Conference 2017年7月16日から7月20日にロンドンで開催された国際アルツハイマー病会議

認知症領域 攻撃因子の重積過程をターゲットとする創薬 抗Aβ抗体 開発の順調な進展



BAN2401^{*1}

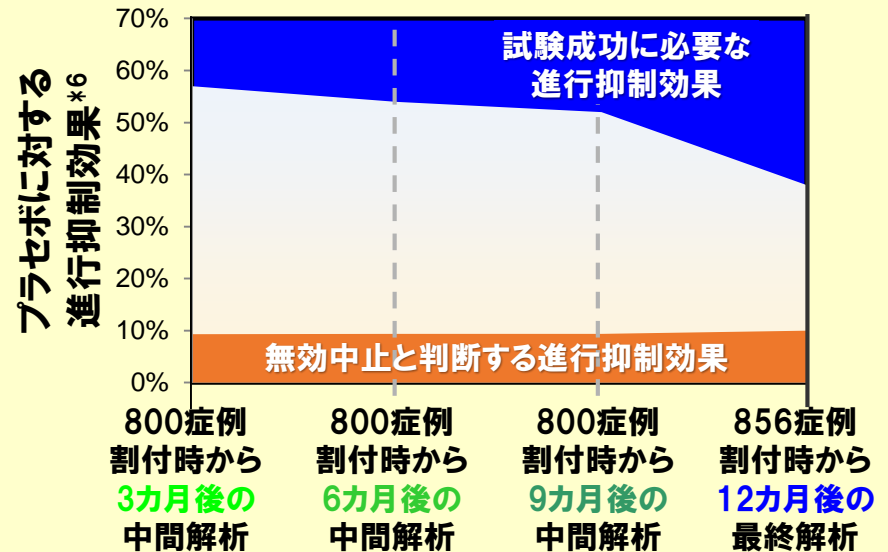
(抗Aβプロトフィブリル抗体)

856症例の患者様を対象とした大規模フェーズII試験進行中

- 2017年7月
800症例割付時の9カ月後の中間解析^{*2}
を実施、IMC^{*3}は試験継続を推奨
- 2017年度3Q (856症例割付時の12カ月後)
主要評価項目^{*4}トップライン結果取得予定
- 2018年度 (856症例割付時の18カ月後)
フル解析(副次評価項目^{*5})結果取得予定

フェーズII試験結果がポジティブな場合
承認申請要件を満たす試験としての
活用について当局と協議中

試験が進むにつれ、主要評価項目で
効果を検出するために必要なエフェクトサイズ
(プラセボと比較して進行を抑制する効果)は小さくなる



Aducanumab^{*7}

(抗Aβ抗体)

フェーズIII試験(ENGAGE試験、EMERGE試験)進行中

*1 Biogen社との共同開発。BioArctic社からの導入品。

*2 800症例割付時の3カ月後、6カ月後、9カ月後に中間解析を実施。バイジアンアダプティブデザインでの中間解析における早期成功のクライテリア:投与開始から12カ月後に最適用量とプラセボとの差が少なくとも25%(1年間におけるAlzheimer's Disease Composite Score (ADCOMS)の点数の変化に対する改善の割合)となる確率が95%以上

*3 Independent Monitoring Committee 独立モニタリングコミッティー *4 Alzheimer's Disease Composite Score(ADCOMS)(12カ月時点)

*5 副次評価項目(3項目):ADCOMS(18カ月時点)、vMRIで測定したトータル海馬体積(6、12、18カ月時点)、アミロイドPETで測定した脳内アミロイドレベル(12、18カ月時点)

*6 シミュレーションでの平均値 *7 Biogen社が開発中、エーザイは共同開発・共同販促のオプション権を保有

Lemborexant*¹ オレキシン受容体拮抗剤

認知症に至る経時的症状変容を見据えた開発

認知症に至る 経時的症状変容

認知症として診断されるよりも前から、睡眠障害や行動障害といった症状がみられる。特に睡眠障害は、最初に出現する症状として知られている。睡眠・覚醒リズム障害によりA β の蓄積が加速し、ADの発症・進展を促進するという仮説も提唱されている。

Lemborexantがターゲットとする2つの適応症

不規則睡眠覚醒リズム障害 (ISWRD*²)

AD/認知症患者様を対象としたファーストインクラスのISWRD治療薬をめざし、フェーズII試験進行中

2017年度末または2018年度の早い時期にトプライン結果取得予定
2019年度申請をめざす

不眠障害

高齢者にも安全なベストインクラスの不眠障害治療薬をめざして2本のフェーズIII試験が進行中

■304試験: 高齢の患者様を対象にした
対照薬「zolpidem」との比較対照試験
2017年度内にトプライン結果取得予定

■303試験: 6カ月の長期プラセボ対照試験

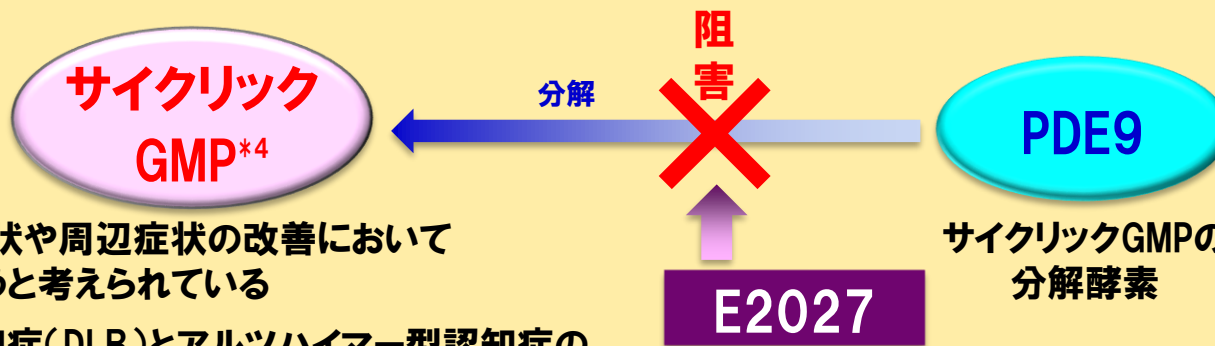
この2本を中心とした効率的な
申請パッケージを構築し
2019年度申請をめざす

E2027 PDE9*1阻害剤



認知症の中核症状*2と周辺症状(BPSD)*3の改善をめざす

作用機序



- 認知症の中核症状や周辺症状の改善において重要な役割を担うと考えられている
- レビー小体型認知症(DLB)とアルツハイマー型認知症の患者様の脳脊髄液中のサイクリックGMPを測定したところ、コントロール群と比べてサイクリックGMPが減少していることが観察された*5

健康成人を対象としたフェーズI試験でE2027の投与により脳脊髄液中のサイクリックGMPレベルが上昇することを確認

AAIC 2017*6で最新データを発表

発表演題

健康人を対象とした選択的ホスホジエステラーゼ9(PDE9)阻害剤 E2027の単回経口投与後の母集団薬物動態-薬力学(PPK/PD)モデリング

選択的PDE9阻害剤 E2027の安全性、忍容性、薬物動態および薬力学に関する臨床第1相試験

新規PDE9阻害剤E2027の前臨床的特性

最初の適応症として、レビー小体型認知症(DLB)を対象としたフェーズII試験の準備中

アルツハイマー型認知症やBPSDを含めた他の適応症も幅広く検討中

*1 ホスホジエステラーゼ9 *2 記憶障害、判断力の低下、見当識障害など

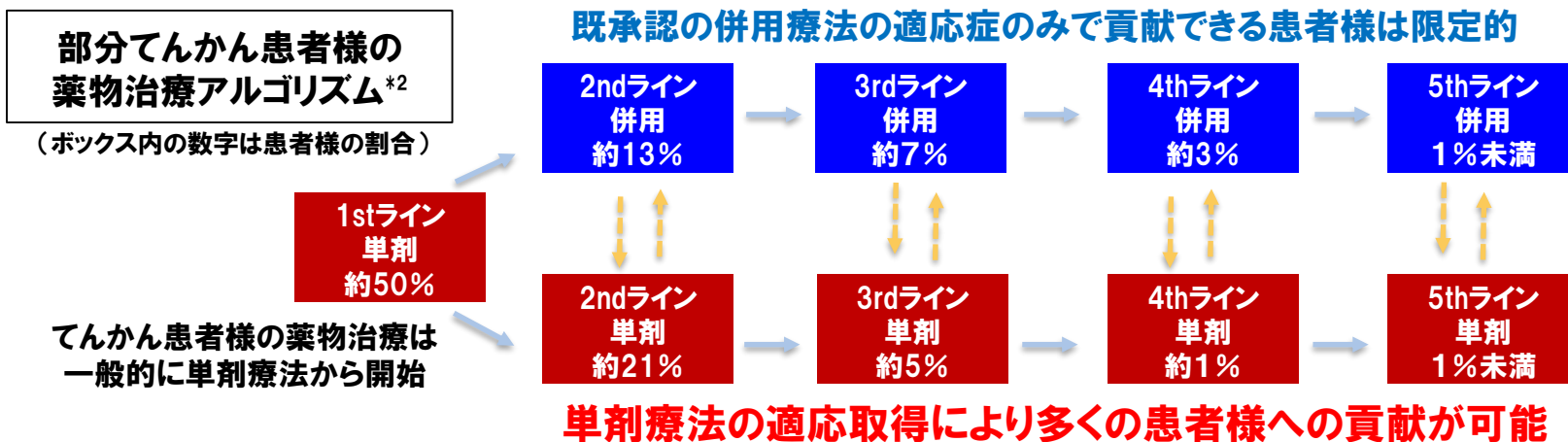
*3 Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia 焦燥、興奮、攻撃性、精神病症状など *4 環状グアノシンリン酸 *5 社内データ

*6 AAIC: Alzheimer's Association International Conference 2017年7月16日から7月20日にロンドンで開催された国際アルツハイマー病会議

米国

2017年7月 部分てんかんにおける単剤療法の承認を取得

- FDAの新規制方式*¹に基づいて部分てんかんにおける単剤療法の承認を取得した初めての薬剤
- てんかんの約6割を占める部分てんかんでは、単剤療法・併用療法で患者様貢献が可能



日本

2017年6月 投薬期間制限が解除

- 発売1周年記念講演会を盛況に終了
- 6月単月で普及施設が約1,000施設増加
- 処方医の拡大に向けて活動を集中(約2,800名から8,000名への拡大をめざす)

蓄積したリアルワールドエビデンスを活かし、併用療法における第一選択薬としてのポジショニング確立をめざす

*¹ 2016年9月に発出されたFDAの抗てんかん剤に関する新規規制方式では、部分てんかんの併用療法として承認された薬剤における安全性と効果が、単剤療法でも同様に得られると推定される場合には、当該薬剤を単剤療法としても使用可能となった。 *² 社内推計

複数の新規作用機序をターゲットとした 認知症およびてんかんを中心とするRobustなパイプラインの進展



今後12カ月以内にトップライン取得が予定される開発テーマ

認知症領域

てんかん領域

その他の領域

フェーズIII 以降

(フェーズIV進行中の
テーマを含む)

Elenbecestat^{*1,2}

早期アルツハイマー病

Aducanumab^{*3}

早期アルツハイマー病

BAN2401^{*4}

早期アルツハイマー型認知症

Lemborexant^{*5}

認知症に伴う
不規則睡眠覚醒リズム障害

E2027

PDE9阻害剤
認知症 フェーズII準備中

Fycompa

単剤療法(日本)

Fycompa

小児適応

Fycompa

レノックス・ガストー症候群

BELVIQ

心血管アウトカム試験(CVOT)
(フェーズIV進行中)

Lemborexant^{*5}

不眠障害

E6011

抗フラクタルカイン抗体
関節リウマチ

E6011

抗フラクタルカイン抗体
クローン病^{*6}

E6742

Toll様受容体7/8拮抗剤
自己免疫疾患

フェーズI

(準備中含む)

E2730

新規のシナプス機能モジュレーター
てんかん等の神経領域疾患

E2082

次世代AMPA受容体拮抗剤
複数の神経領域疾患
フェーズI準備中

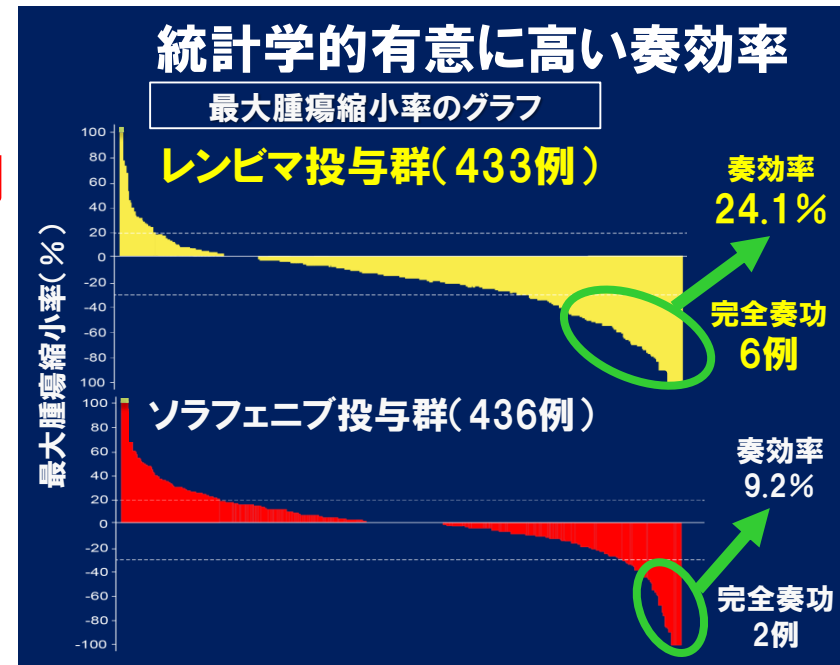
*1 E2609の一般名。現時点で最終確定したものではない *2 Biogen社との共同開発 *3 Biogen社が開発中、エーザイは共同開発・共同販促のオプション権を保有
*4 Biogen社との共同開発。BioArctic社からの導入品。 *5 Purdue Pharma社との共同開発 *6 EAファーマが開発中

肝細胞がんで良好なデータを取得し、日米欧で申請達成

肝細胞がん1stライン: ASCO 2017^{*1}で良好なフェーズIII試験結果を口頭発表^{*2}

ソラフェニブを対照薬とした比較試験で

- ソラフェニブの肝細胞がんに係る適応の承認以降約10年間で初めて同薬剤に対して主要評価項目である**全生存期間(OS)の統計学的な非劣性を証明**
- **進行(無増悪生存期間(PFS)、無増悪期間(TTP))を統計学的有意に抑制**
- **安全性プロファイル^{*3}はこれまでに認められたものと同様であり、ソラフェニブで頻度が高い有害事象である手足症候群の発生が少ない**
 Grade3/4の手足症候群: **レンビマ3%** vs **ソラフェニブ11%**
- **全般的なQOLの評価^{*4}において、痛みや下痢などのQOLの悪化を遅延(名目P値<0.05)**
- **バイオマーカーの解析結果から、レンビマがVEGFシグナル経路に加え、FGFシグナル経路も抑制するユニークな特徴をもつことが示唆**



日本(2017年6月)、米国・欧州(7月)で申請達成 2017年度下期 中国で申請予定
新たな肝細胞がんの標準治療としてのポジショニング確立をめざす

*1 ASCO: the American Society of Clinical Oncology 2017年6月2日から6月6日まで米国シカゴで開催された第53回米国臨床腫瘍学会年次総会

*2 2017年6月4日発表 “Phase III trial of lenvatinib (LEN) vs sorafenib (SOR) in first-line treatment of patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (uHCC)”

*3 レンビマ投与群で確認された有害事象(上位5つ)は、高血圧、下痢、食欲減退、体重減少、疲労 *4 EORTC QLQ-C30質問票に基づく

ペムブロリズマブ併用：子宮内膜がんに関するデータを発表

ペムブロリズマブとの併用療法に関するフェーズ I b/ II 試験(111試験)

腎細胞がん、子宮内膜がん、メラノーマ、頭頸部扁平上皮細胞がん、尿路上皮がん、非小細胞肺癌を対象

子宮内膜がんの患者様23人を解析対象とした結果について ASCO 2017^{*1}で発表

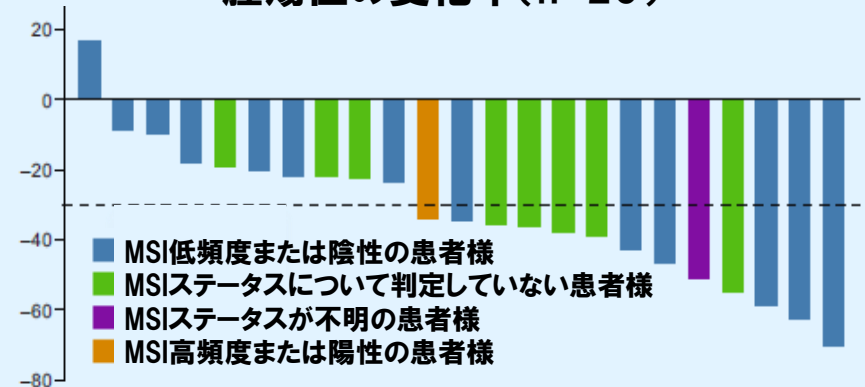
主要評価項目である奏効率^{*2} 52.2% (95%信頼区間 30.6-73.2)

**レンビマとの併用においては
MSI^{*3}の状態に関わらず腫瘍の縮小を確認**

(一般に抗PD-1抗体は、MSIを高頻度に認める患者様により効きやすく、それ以外の患者様には効きにくいとされている)

**レンビマとの併用で
より多くの子宮内膜がんの患者様に
新たな治療方法をお届けできる可能性を期待**

腫瘍径の変化率(n=23)



*1 2017年6月3日発表 “A phase 1b/2 trial of lenvatinib plus pembrolizumab in patients with endometrial carcinoma” *2 独立画像判定に基づく

*3 Microsatellite instability: マイクロサテライト不安定性

がん領域 グローバルブランド2品の順調な成長



2017年度見通し430億円達成に向けて順調なスタート

乳がん*1

- 米国 転移性乳がん3rdラインでのシェア向上
- 日本 転移性乳がん早期ラインでの処方拡大に向けた取り組みにより2桁成長を達成

軟部肉腫*2

- 40カ国以上で承認を取得
さらなる患者様貢献の拡大をめざす



米欧において高成長を達成 2017年度見通し330億円の達成をめざす

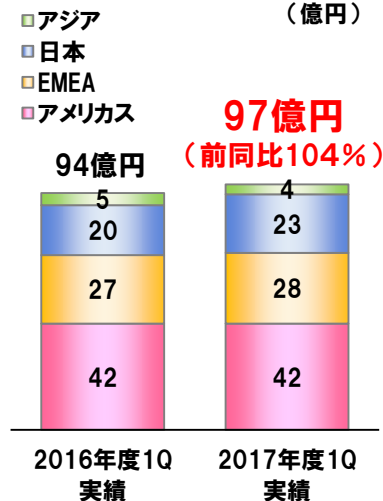
甲状腺がん

- 米国 1stラインでトップシェア*3を確保、堅調な成長に貢献
- EMEA ドイツを始めとする初期上市国での持続的成長とフランス、イタリア等後続上市国での急伸拡大

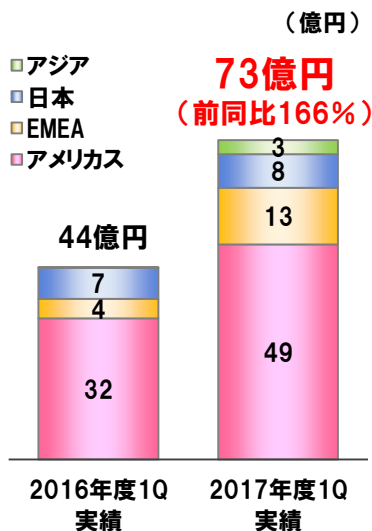
腎細胞がん
2ndライン
(エベロリムスとの併用)

- 米国 市場浸透の加速をめざし、コール数を拡大

Halaven 売上収益



LENVIMA 売上収益



*1 米国での適応症:局所進行性・転移性乳がん3rdライン以降、欧州での適応症:局所進行性・転移性乳がん2ndライン以降、日本での適応症:手術不能または再発乳がん *2 米国、欧州での適応症:脂肪肉腫、日本での適応症:悪性軟部腫瘍

*3 IPOSデータ (2017年5月現在の3ヵ月平均)

がん領域 「立地」からの創薬によるパイプラインの進展

がんのドライバー遺伝子変異とがん微小環境



H3B-8800 SF3B1モジュレーター

ファーストインクラスのスプライシングモジュレーター

フェーズ I 試験進行中

FDAから慢性骨髄単球性白血病(CMML)と急性骨髄性白血病(AML)治療のオーファンドラッグ指定取得(2017年6月)

SF3B1などスプライシング因子の変異が報告されているがん*1

ブドウ膜メラノーマ、慢性リンパ球性白血病(CLL)、骨髄異形成症候群(MDS)、慢性骨髄単球性白血病(CMML)、急性骨髄性白血病(AML)等

スプライシング異常を有する幅広いがんに効く可能性

E7386*2 CBP/β-カテニン阻害剤

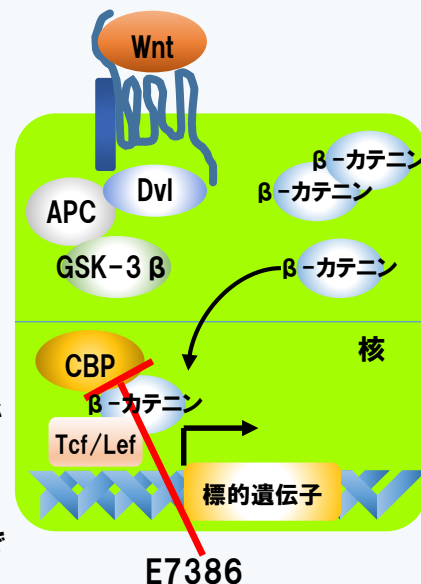
Wntシグナル経路の下流に位置するCBP/β-カテニン相互作用を阻害するファーストインクラスの分子標的治療をめざす

- ▶ 発がんのメカニズムにおいて、Wntシグナル経路の異常に関する報告は多く、特にWntリガンドの過剰発現やβ-カテニンの遺伝子変異が様々ながんでは報告されている

2017年5月 MHRA*3からCTA*4承認を受領
2017年7月 フェーズ I 試験開始

Wntシグナル経路

分泌性糖たんぱく質であるWntが受容体に結合すると、Dvlを介してGSK-3βにシグナルが伝達され、β-カテニンの分解が抑制される。細胞質に蓄積したβ-カテニンは核内に移行した後、転写因子Tcf/LefやCBPなどと複合体を形成して遺伝子発現を促進することで細胞の増殖や分化を制御している。



抗体薬物複合体(ADC)による エリブリンフランチャイズの拡大



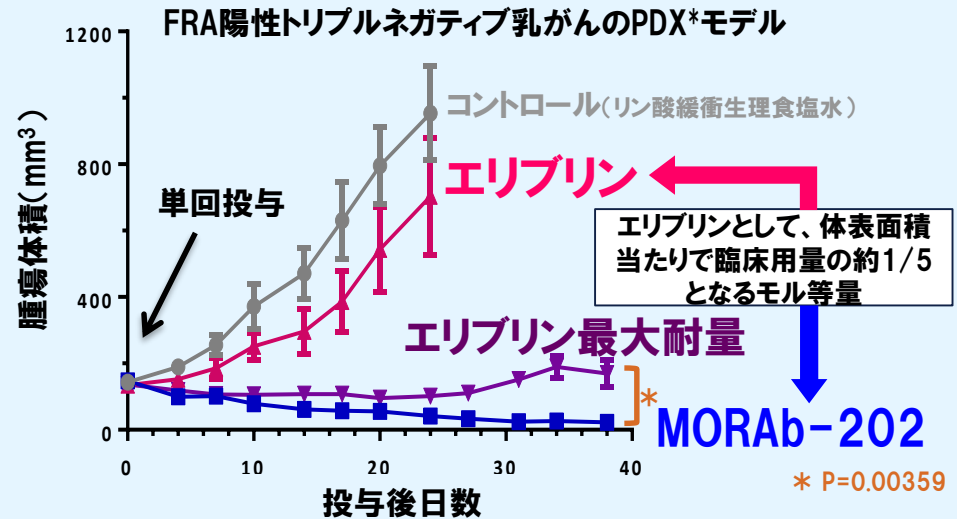
MORAb-202

臨床開発進行中の自社創製抗体ファルレッズマブと、乳がんをはじめとするがん種で
すでに上市済みのHalaven(エリブリン)の組み合わせによるADC

ファルレッズマブのターゲットである
葉酸受容体 α (FRA)

- 子宮内膜がんやトリプルネガティブ乳がんを高発現
- タイプ2子宮内膜がんやトリプルネガティブ乳がんの予後の悪さとFRAの発現が相関

前臨床モデルでMORAb-202は
顕著な有効性を示す



FRAを発現しているがんをターゲット
フェーズ I 試験を2017年度開始予定

* Patient derived xenograft: 患者由来異種移植片

Halaven、LENVIMAの併用療法等によるポテンシャル拡大と 「立地」からの次世代パイプラインの効果的な開発



フェーズIII 以降 (申請中を含む)

LENVIMA
肝細胞がん1stライン
2017年度上期 日米欧申請達成

LENVIMA
腎細胞がん1stライン:
エベロリムスとの併用および
ペムブロリズマブとの併用

単剤 併用

フェーズII (フェーズI/II 進行中、準備中 を含む)

LENVIMA
腎細胞がん、子宮内膜がん、
メラノーマ、
頭頸部扁平上皮細胞がん、
尿路上皮がん、非小細胞肺癌:
ペムブロリズマブとの併用
フェーズI/II

Halaven
トリプルネガティブ
乳がん:
ペムブロリズマブ
との併用
フェーズI/II

Halaven
HER2ネガティブ
乳がん:
PEGPH20*1
との併用
フェーズI/II

HBI-8000*2
ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤
末梢性T細胞リンパ腫(PTCL)*3
成人T細胞白血病/リンパ腫*3

フェーズI (準備中を含む)

H3B-8800
SF3B1モジュレーター
血液がん

H3B-6527
FGFR4阻害剤
肝細胞がん

E7090
FGFR1,2,3阻害剤
固形がん

E7438*4
EZH2阻害剤
血液がん

E7046
EP4拮抗剤
直腸がん:術前放射線
化学療法との併用

H3B-6545
ESR1阻害剤
乳がん
フェーズI準備中

MORAb-202
ADC
フェーズI準備中

E7386*5
CBP/β-カテニン阻害剤
固形がん

*1 Halozyme Therapeutics Inc.が開発中のPEG化遺伝子組換えヒト型ヒアルロン酸分解酵素

*2 HUYA Bioscience International, LLCとの共同開発品。エーザイは日本、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナムおよびシンガポールにおける独占的な開発および販売権を有する

*3 Registration trial *4 Epizyme Inc. との共同開発品。エーザイは日本における開発、商業化を担うとともに、アジア地域における優先交渉権を有する。*5 PRISM Pharmaとの共同開発品

参考資料

セグメント売上収益



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前同比
日本*1	771	56.3	780	55.0	101
アメリカス*2	292	21.3	288	20.3	99
中国	112	8.2	131	9.2	117
EMEA*3	90	6.6	101	7.1	111
アジア*4	86	6.3	99	7.0	115
医薬品事業計	1,351	98.6	1,398	98.6	104
その他事業	19	1.4	20	1.4	109
連結売上収益	1,369	100.0	1,419	100.0	104

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *4 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

セグメント利益



(億円、%)

	2016年4-6月			2017年4-6月			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前同比
日本*1	290	60.4	37.6	305	59.4	39.1	105
アメリカス*2	86	17.8	29.4	98	19.0	33.8	114
中国	36	7.6	32.6	40	7.8	30.4	109
EMEA*3	38	8.0	42.5	36	7.0	35.7	93
アジア*4	26	5.3	29.9	29	5.7	29.6	114
医薬品事業計	477	99.2	35.3	508	98.8	36.3	107
その他事業	4	0.8	21.6	6	1.2	31.3	158
セグメント利益計	481	100.0	35.1	514	100.0	36.2	107
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△316			△363			
割安購入益*5	93						
子会社株式売却益*6	1						
連結営業利益	258		18.9	151		10.7	59

* 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていたメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費に組み替えている。

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *4 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

*5 2016年4月にEAファーマ株式取得に伴い割安購入益を計上 *6 2016年4月にサンノーバ(株)を譲渡

日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	771	100.0	780	100.0	101
医療用医薬品計	653	84.7	652	83.7	100
ヒュミラ	94	12.2	112	14.3	119
アリセプト	89	11.6	70	9.0	78
リリカ*1	61	7.9	67	8.6	110
バリエット*2, 3	60	7.7	49	6.3	82
メチコバル	50	6.5	46	5.9	92
ルネスタ	19	2.5	25	3.2	131
ハラヴェン	20	2.6	23	3.0	117
エレンタール*2	16	2.1	17	2.2	104
トレアキシ	11	1.4	17	2.2	160
ワーファリン	19	2.5	17	2.1	86
リーバクト*2	19	2.5	16	2.1	85
レンビマ	7	0.9	8	1.0	108
フィコンパ	1	0.2	3	0.4	281
ジェネリック医薬品	71	9.2	71	9.2	101
一般用医薬品等	47	6.1	56	7.1	118
セグメント利益	290	37.6	305	39.1	105

アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	
売上収益	292	100.0	288	100.0	99	[96]
Aloxi	120	41.1	106	36.7	88	[86]
レンビマ	32	11.0	49	16.9	152	[148]
ハラヴェン	42	14.4	42	14.5	100	[97]
Banzel	31	10.6	41	14.1	132	[128]
Fycompa	12	4.1	16	5.5	132	[129]
アシフェックス	18	6.3	16	5.4	85	[83]
BELVIQ	10	3.3	10	3.3	99	[96]
セグメント利益	86	29.4	98	33.8	114	[111]

[]内は現地通貨ベース

* 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていたメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費に組み替えている。

中国医薬品事業の業績



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	112	100.0	131	100.0	117 [119]
メチコパール	40	35.4	49	37.5	124 [126]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	21	18.6	22	17.0	107 [109]
アリセプト	14	12.3	16	12.5	119 [121]
パリエット	9	8.2	13	9.9	143 [145]
セグメント利益	36	32.6	40	30.4	109 [112]

[]内は現地通貨ベース

* 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていたメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費に組み替えている。

EMEA* 医薬品事業の業績



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	90	100.0	101	100.0	111 [112]
ハラヴェン	27	30.0	28	27.8	103 [104]
レンビマ/Kispplx	4	4.9	13	12.8	293 [294]
Fycompa	11	11.9	12	11.7	109 [110]
ゾネグラン	15	16.6	11	10.8	72 [73]
Zebinix	7	7.7	10	10.1	147 [148]
イノベロン	5	5.2	5	5.4	115 [117]
セグメント利益	38	42.5	36	35.7	93 [88]

[]内は現地通貨ベース

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

** 当期より、経営の実態をより適切に表示するため、研究開発費の定義を明確化し、科学的エビデンスの創出ならびに医療従事者との共有などのメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費としている。これに伴い、前期の販売費及び一般管理費に含まれていたメディカル・アフェアーズ活動に関連する費用の一部を研究開発費に組み替えている。

アジア*医薬品事業の業績



(億円、%)

	2016年4-6月		2017年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	86	100.0	99	100.0	115 [109]
ヒュミラ	24	27.8	29	28.9	120 [111]
アリセプト	24	28.1	27	27.7	114 [107]
パリエット	9	10.2	10	9.9	111 [106]
メチコパール	7	7.9	7	7.1	103 [98]
ハラヴェン	5	5.6	4	4.0	82 [77]
レンビマ	0	0.2	3	3.2	1581 [1551]
Fycompa	1	0.7	1	1.2	203 [190]
セグメント利益	26	29.9	29	29.6	114 [107]

* 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

[]内は現地通貨ベース